

# 史跡・城跡・神社・寺院

## 1 羽山城跡

(玉里字長倉沢)

上樋茂井野の北方の丘陵に位置し、大手門は西南端、獨手門は北東部にあったとされる。

貞享元年(一六八四)葛西氏御分領中「古城書上」に、東西二三五、南北七二、城主は角掛右近とある。

菊池藏人武恒から三代、江刺氏に仕えたが、天正一八年(一五九〇)の豊臣秀吉の奥州仕置により、江刺氏と共に南部領に逃れたと言われている。角掛氏は、菊池氏と同族である。



## 2 青篠城跡

(玉里字大松沢)

江刺東中学校の南隣の森が青篠城跡である。

南方にのびる丘陵に立地しており、東西は急な崖になっている。丘陵の中腹の北西から南方にわたって空堀があり、頭頂部の平坦面は、東西三〇、南北八〇の規模である。

「仙台領古城書上」には、東西二〇間、南北六〇間とあり、菊池右馬丞を城主としている。この人は江刺兵庫守の家老と伝えられている。



## 3 高間ヶ岡館跡

(玉里字高間ヶ岡)

館主及び年代等は不明である。場所は、高間ヶ岡の正光寺の向かいに位置する。

館の頂上は狭いが平坦。北方は絶壁であり登頂には困難である。東に二重、西に三重、南北各一の空堀を廻らしている。



## 4 玉崎館跡

(玉里字玉崎)

万松寺山(二二五)の東南端に位置し、別名マトバ館、高館ともいわれている。「仙台領古城書上」に東西三六、南北二三・六、城主は次丸道海入道とある。

館は東、西、南ともに急崖である。北方には空堀が二重に残されている。城主の次丸道海は、江刺氏の家臣といわれ、葛西氏の家臣でもある。この館の前身は蝦夷館であったといわれている。



## 5 守林寺跡

(玉里字青篠)

寺院跡。廃寺跡。現在地に移転する前の位置であり、西南面緩斜面の原野である。移転年月不明。



## 7 天正寺跡

(玉里字六百刈田沢)

寺院跡。廃寺跡。現地に墓碑群と石の地蔵尊二基がみられる。

この寺について、ならん文献はないが、天正年間存在で、天台宗であったといわれている。



## 6 大林寺跡

(玉里字大森前)

寺院跡。廃寺跡。角掛大森観音堂付近にあり、その詳細は明らかではない。

封内風土記に「仏宇一、大森観音堂、伝云。坂上田村磨創建而古昔有寺、号大林寺、天台宗也」とある。また、「名跡志白、古昔有寺、号大森山大林寺、嘉祥中。慈覚所開、安十一面観音、長七尺、運慶作也。寺今已亡」とある。

## 8 七里塚

(玉里字樋茂井)

角掛樋茂井野、御免の東方、八首街道(旧盛街道)に沿って北側にある。道路の改修工事と水田の区画整理事業によって道路と同じ高さとなっている。

その中心と目ざれるところに桜の老木が一本生えており、その根元に享保一三年(一七二八)の南無阿弥陀仏碑と安政



七年(一八五五)、早池峰神社及び万延元年(一八六〇)の馬頭観音の碑がある。

## 9 高杉塚

(玉里字玉崎)



## 10 八雲神社

(玉里字玉ノ木沢)

玉崎駒形神社正面参道の鳥居に向かつて左上の土手に塚がある。以前は、杉の大木が生い繁っていたといわれる。昔の一里塚で岩谷堂町より一里の地点に相当する。一里塚は慶長九年(一六〇四)、東山道、東海道、北陸道に六十間一町、三十六町一里とし、江戸日本橋を起点として建設した。

祭神は、牛頭天王と素戔嗚尊。川子野にあった狐洞屋敷の助内という人が、京都祇園社の許しを得て開いた社といわれている。

もとは狐洞と呼ばれていたところに、天王様として祀っていたが、度重なる山火事に遭い、現在の場所に遷し、社殿も整えて祀ったもの。氏子は初胡瓜を献上する風習があったことから、胡瓜天王とも呼ばれていた。

